

藝 GEI RIN 林

第六十二卷 第一号

平成二十五年四月

出雲の神の国譲り神話

この二神（建御雷神・天鳥船神）、出雲国の伊那佐の小浜に降り
到り……大国主神に問ひて云はく「天照大神……汝がうしはける
葦原中国は、我が御子の知らず国ぞと言よさし賜ひき。故、汝の
心は如何」と。（交渉経緯、省略）……

（大国主神）答へて曰はく「僕の子等二神（事代主神と建御名方
神）の曰す隨に……この葦原中国は命の隨に既に献らむ。ただ僕
が住所をば、天神の御子の天津日繼（皇位）知ろしめすとたる天
の御巢の如くして、底つ石根に宮柱太しり高天原に千木高しりて
治め賜はば、僕は……隠りて侍らむ。亦、僕の子等百八十神……
違ふ神はあらじ」と。かく曰して、出雲国の多藝志の小浜に天の
御舎を造ります。……（日本古典文学大系『古事記』参照）

※葦原中国を占有していた大物主神は、子神に相談して天照大神の
使者と交渉させた上で「国譲り」を決断されたが、その際に天子の
宮殿のごとき立派な住居（神殿）の造営を求められたという。この
国譲りは、崇神天皇朝（推定三世紀前半）の出雲帰順伝承を反映し
た神話とみられる（田中卓博士「古代出雲攷」）。